

令和 7 年度全国定時制通信制高等学校生徒生活体験発表大会茨城県大会 会場校 校長挨拶

茨城県立茎崎高等学校長 吉田 真弘

「令和 7 年度茨城県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会」が、県教育庁学校教育部高校教育課、つくば市ならびにつくば市教育委員会、茨城新聞社、Lucky FM 茨城放送はじめ関係各位のご尽力により開催できますことについて、深く感謝申し上げます。また、発表者やそのご家族、引率の先生方等、遠路はるばるご来場いただきました皆様一人ひとりに御礼申し上げます。発表者の皆さんはこれまで練習を重ね、本日を迎えられていることと思います。本校といたしましても会場校として、できる限りの準備を進めてまいりましたつもりですが、何か至らない点がございましたらご容赦いただければと存じます。

さて、この大会は「定時制通信制課程に学ぶ高校生が、学校生活や社会生活を通して感じたこと、学んだことなど自らの体験を発表し、多くの人々に共感と励ましを与え、併せて定時制通信制教育の振興を図り、次代を担う青少年の健全育成に資すること」を目的として昭和 29 年から全国の定時制通信制課程の高等学校で行われており、今年で 73 回目となる歴史と伝統のある大会です。今年度は県内 16 校から選ばれた 22 名の発表者が出場いたします。

生活体験発表大会は定時制通信制高校で学ぶ様々な体験・経験をした生徒の成長の物語です。「成長」とは、昨日に比べて今日、昨年に比べて今年、これまでの自分に比べて現在の自分への「変化」をいいます。「成長」を実感するためには、まず、昨日の、昨年の、そしてこれまでの自分に向き合わなければなりません。それは決して楽しいことばかりではありません。むしろ、できれば避けたいことかもしれません。しかし、それを避けている限り「成長」は実感できません。自らの挫折や将来に向かっての夢や目標などを文章にまとめ、発表するのは勇気のいることであり、大変なことだったと思います。しかし、こうして文章にまとめ、声に出して発表することによって、夢や目標がより明確になったのではないかと思います。そして、それらを共有することによって、これからの自分を見つめ、さらなる成長の糧となることが期待されます。

結びに、本大会を主催されました茨城県高等学校定時制通信制教育振興会の青谷 洋治 会長様、茨城県高等学校教育研究会定通部の西野 守郎 部長様、またお忙しい中、審査員としてご協力を賜りました皆様方、生徒をご指導いただいた先生方、ご協力いただいたすべての方に深く感謝申し上げますとともに、この大会が皆様の心に残る、実りある大会となることを祈念し、会場校の挨拶といたします。